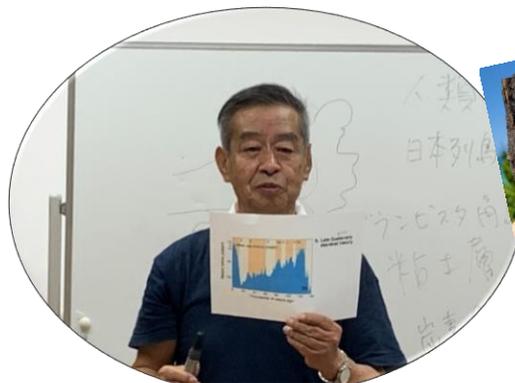


# 火起こし体験会 2024.10.19 (土) 実施



講師の久村敏男さん



4万年前の埋没林 (埋もれた木)

2002年頃、角島灯台近く(平坊海岸)を造成中、その粘土層から遺物が採取された。その遺物(木)は黒く焼け焦げていた。そこで、3つの試料を専門機関(株式会社 古環境研究センター)に放射性炭素年代測定を依頼したところ、そのうちの 하나가 BC4万年より以前のかかなり古い試料ということがわかった。4万年前以前に木が焼けた原因は、自然発火?それともヒトの失火?なのでしょう。

今回は、「豊北郷土文化友の会」会長の久村敏男さんを講師に、古代の方法を使って、火起こしをしてみることにしました。そして、起こしたの火を使って芋を焼いて食べる体験会を計画しました。

当日、残念ながら、天候(雨)の関係で、講義と火起こし体験のみとなりましたが、マイギリ式の火起こし器を使って、苦勞しながらも参加者全員が火を起こすことができ、昔の人の苦勞を体験することができました。



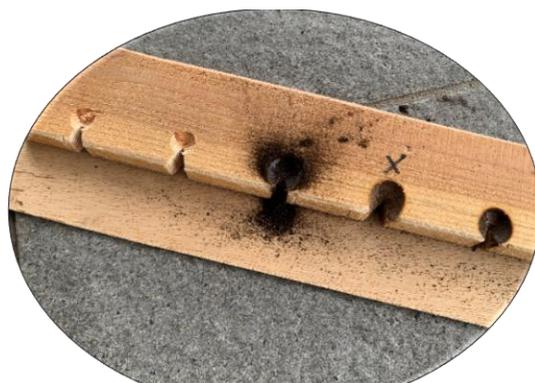
講義の様子



マイギリ式火起こし器を使って説明する様子



火起こし体験の様子



火が起きた様子

# ダルマギクの植苗 2024.10.27 (日) 実施



準備された苗



植苗の様子



参加された皆さん

牧崎風の公園の一角で、毎年恒例のダルマギクの植苗を、地域の子もたちと一緒に、行いました。6月にダルマギクの新芽を採取し、挿し木をして、苗を育てました。2300万年前より以前は、日本列島が大陸にあった地史が分かる貴重な植物だと説明を受けた後、みんなで苗を植えました。牧崎のダルマギクはまだ咲き始めたばかりです。